

令和 6 年度 学校自己評価システムシート (県立鴻巣女子高等学校)

目指す学校像	(1) 自立した女性の育成 (2) スペシャリストの育成
--------	------------------------------

重点目標	1 学習環境の整備と事前学習等の授業改善を通して、生徒一人一人の学力を向上させる。 2 きめ細やかな指導を通して、生徒の主体的な進路実現を支援する。 3 規律ある高校生活を通して、生徒一人一人を大切にしている指導を推進する。 4 地域との連携事業や情報発信を通して、地域に貢献する学校づくりを推進する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名

学校自己評価						
年度目標					令和6年度評価 (2月1日現在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	(現状) 学習環境づくりの指針「授業5原則」「CLEAN THE TABLE」「朝読書」の徹底で校内は大変落ち着いており、計画的な学習活動が展開されている。また、ICT関係の整備や教員の研修により、ICT機器を活用した授業が積極的に行われている。 (課題) 生徒用のタブレットの導入に伴い、授業におけるICTのさらなる活用が求められる。また、観点別評価への理解を深め、より適切に実施していく必要がある。	生徒一人一人に学科・教科ごとの具体的な目標を持たせ、学習意欲や学力を向上させられたか。	①授業ごとに年間学習計画を周知することで、明瞭な学習目標を生徒に持たせる。また、学期ごとに学習を振り返らせ、まとめさせる(学年・授業担当)。 ②学習の方法(予習・復習等)を生徒に具体的に指示することで、学力の底上げを図るとともに家庭学習時間の増加につなげる(授業担当)。 ③ICT研修会を行い、授業でのICT活用を支援する(複数回実施)。 ④各種研修会や授業公開週間等を活用し、観点別評価への理解を深め、教員間の学び合いの充実を図る(複数回実施)。	①学習に関する意識を高めた生徒の割合(前年度比較) ②家庭学習時間の状況(前年度比較) ④授業でのICT活用状況・頻度 ⑤研修会等の実施状況と成果	新学習指導要領による教育課程が3年目となり、ICTの活用も進んだ。 ①③:学力向上の実感(82.6%→81%)課題提出の自己評価(95.6%→95.7%) ②家庭学習時間はやや底上げされた。(30分未満 58.7%→52.4%、1時間以上 16.3%→19.2%) ③ICT研修会を2回実施。頻度の差はあるがどの教科でもタブレットなどのICTを活用している。生徒端末での辞書ソフト活用率が昨年度より大幅に増加した。 ④各種研修会を実施するとともに授業公開週間や交流会を設定し、職員の関係性の向上、生徒への対応力向上を図った。	A 学力向上を実感する生徒の割合は、前年度とほぼ横ばいで、家庭学習時間は改善されたが、十分とは言えない。家庭学習を促進する取組を検討する必要がある。 家庭の理解もあり、タブレットは1年生ほぼ全員が購入できた。さらなる活用に向けて研修会等を通して、研究を進める必要がある。 研修会や授業公開週間を通して、授業内容の工夫改善に繋がった。
2	(現状) 自立した社会人になれるよう、学年に応じた体系的な進路指導を行っており、卒業時の進路決定率も高い水準にある。 (課題) 進路に対する生徒の意識を高め、進路決定の充実を図る必要がある。学校としては、進学希望者の増加、学部学科の内容の多様化に対応した指導の充実、オンライン見学・出願等への対応等の研究が必要である。また、保護者に対する情報発信・進路意識の涵養も課題である。	生徒一人一人の進路実現に向けて、適切な進路指導計画、キャリア教育を一層拡充させられたか。	①基礎力診断テストの結果を活用して、各生徒の実態を把握する。(進路部・学年・授業担当) ②進路の手引きを定期的に活用して、進路行事・キャリア教育の振り返りを行わせることで生徒の進路意識を高める。(学年・クラス) ③進路希望調査、二者面談、三者面談の実施により生徒の実態を丁寧に把握し、個に応じた指導を行うことで進路未決定者を減少させる(進路部・担任)。 ④講演会や学年懇談会などで、保護者へ進路関係の情報を発信する(進路部)。 ⑤進学・就職希望者向けの特別講座の実施する(学年・進路部)。	①テスト等の結果分析と活用状況 ②③進路意識を高めた生徒の割合(前年度比較) ③進路未決定者の割合(前年度比較) ④保護者の進路行事参加状況及び情報発信状況 ⑤実施内容・回数など	生徒の努力と学校の組織的な指導により、3年生の進路決定は順調である。 ①基礎力診断テスト等の結果を基に、生徒の学習到達度を把握し、卒業後の進路や次年度の選択科目を指導する上で活用した。 ②進路行事の振り返りの指導を行い、進路意識の定着を図った。(進路行事に積極的に参加 86.5%→82%) ③進路未決定者の割合(9.7%→3.9%) ④学年別懇談会等で進路決定に向けた心構えについて説明した。 ⑤進路に係る面接指導、論文指導、進学補習を行った。	B 就職は、希望者1名あたり4社超えの求人があり、決定も順調だった。 就職試験や入試へのICTの導入が進んでいる。高校においても変化に応じた対応を進める必要がある。 保護者への意識を高めるために、情報発信を積極的に行う必要がある。
3	(現状) 「授業5原則」等の全校的な取組により生徒の基本的な生活習慣や自己管理能力は高い水準にある。学校行事に多くの生徒が主体的に参加しているが、より積極性を引き出したい。 (課題) 生徒の積極性を引き出すために、自己肯定感を高める指導が必要である。また、ネット社会のトラブル防止やマナー向上を図ることにより、他者を思いやる「気付き」力を養う取組を行う。	生徒の自己管理能力、コミュニケーション力と他者を思いやる「気付き」力を育成するとともに、各種の個別支援体制を改善できたか。	①生徒手帳の活用を計画的に指導し、生徒各自にスケジュール管理を徹底させるとともに、生徒の自己管理の状況を把握・指導する(クラス担任)。 ②各種のマナーの向上や良好な人間関係の構築、SNSトラブル等に関する講演会、学習会を実施する(生徒部、在り方生き方に係る教育推進委員会)。 ③生徒が整理・整頓できる力を養うため、日常的に荷物ダイエット等粘り強い指導を行う(学年)。 ④不安や悩みを持つ生徒への教育相談やカウンセリング機能を整えるとともに、教員研修会を実施する(体制の整備・強化)。	①②③学校生活アンケート調査結果による成果と前年度比較 ①自己管理の意識を高めた生徒の割合(前年度比較) ②各種講演会等の事後アンケート項目の肯定的回答(8割以上) ④個別支援に関するアンケート項目の肯定的回答(前年度比較)	生徒の自己管理能力の水準は高く、悩みや不安を抱えた生徒への支援体制も充実している。 ①HR、学校行事等で生徒手帳を活用することが習慣化され、自己管理能力は高い水準を維持している。(課題提出の自己評価 95.6%→95.7%) ②挨拶運動を2回行い、マナーの意識は高い。(挨拶の自己評価 92.8%→95.2%) ③「CLEAN THE TABLE」自己評価:94.9%→94.5% ④特別支援教育巡回支援員や本校独自のスクールカウンセラーの活用で困難を抱えている生徒への支援体制は充実している。(悩みや不安を相談する相手・場所がある:87.4%→87%)	B 人間関係づくりに課題を抱える生徒が増え、生徒間のトラブルも散見されるため、生徒へのソーシャルスキルを高めるための研修会や授業を実施することができた。引き続き、生徒の実態に合わせた指導を計画的に行う必要がある。 教員の生徒支援体制を学校全体で行えるよう研修会や交流会を実施した。今後も計画的に実施していきたい。
4	(現状) 文化祭の限定公開ができるようになるなど、外部との地域交流が復活しつつある。鴻巣市の植栽ボランティアへの参加も堅調である。 (課題) 生徒の社会貢献意識が高く、外部機関とWIN-WINの関係づくりを学校全体で進めていく必要がある。また、多くの中学生や保護者に本校を知ってもらうため情報発信に努める必要がある。	外部との連携を深め、生徒の活躍の場を広げられたか。外部に効果的に情報発信ができたか。	①外部との連携を深めるとともに、多くの生徒が地域交流や学校行事に参画できるように丁寧に指導・支援する(通年:生徒部、教科担当)。 ②各種の体験活動、外部連携事業等の充実を図る(担当)。 ③学校説明会やHPの充実を図ることで、中学生とその保護者に本校への理解を促進する(担当)。 ④Webツールを活用した情報配信やHPの積極的な更新、学校通信の発行により、情報発信を強化する(通年)。	①③地域交流等の実施状況と成果 ②体験活動、ボランティア参加等に関するアンケート調査結果による成果(前年比較) ③説明会へ参加した中学生の数 ④配信回数、記事数、発行回数など	生徒の活躍の場を設けることができた。また学校の情報発信を積極的に行えた。 ①企業との地域文化祭や鴻巣市のイベント参加による地域連携の実施。(学校行事に積極的に参加:95.8%→96.4%) ②小学生との伝統文化交流(筆曲部)を実施予定。(3月)大学との連携(ファッションショーでの協働活動、探究活動等)を充実させた。 ③④出張学校説明会の時期を変更し実施。(参加者:3人→32人)学校通信3回発行。HPの新着情報138→121	A 企業や鴻巣市など、地域との連携事業が充実した。また、既存の大学連携以外の大学との連携など生徒が活躍できる場が広がった。 学校説明会で部活動や生徒会役員の活躍の場を設けることが、生徒募集だけでなく、生徒自身にとって大変有益であった。

学校関係者評価
実施日 令和7年2月4日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちは、授業に積極的に取り組んでおり、他の生徒の意見も興味深く聞いている。 ・ICTを活用している授業が多く、今後も効果的に活用していただきたい。 ・学校が生徒の力をうまく引き出してきている。 ・家庭学習時間の向上が図れているので、生徒の学力向上の実感に繋がっていただきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・学年主任が生徒たちの状況把握をしっかり行っており、学年を引っ張っている。 ・進路未決定者の割合が減少しており、丁寧に指導されている様子が伝わる。 ・就職試験対策において、企業と連携した取組を入れても良いと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の出席状況が大変良く、相手の意見を受容し、落ち着いたクラスの雰囲気がとても印象的だった。 ・先生方が生徒に寄り添って、丁寧に対応されている様子が伝わった。 ・生徒会役員たちは、非常に頼もしく、学校をより良くしていきたいという気持ちがよく伝わった。今後の活躍を期待したい。
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の社会貢献意識が高く素晴らしい。 ・小学生との伝統交流事業や地域交流が充実してきており、伝統文化の継承や社会貢献意識の向上に繋がると考える。 ・HPが充実しているため、校内外で活躍する生徒の様子が分かるので、引き続き、発信してほしい。